

# ペアレントトレーニングによる発達障害児の保護者支援

## ～かんがるーグループの取り組みを通して～

心身障がい福祉センター（あいあいセンター）

### ～ 特集「第9回研究・実践成果発表会」から ～

※発表会については、6～7ページをご覧ください。

#### ■ はじめに

心身障がい福祉センター児童部門の新規相談件数において、発達障害児はその6割を占めています。その状態像は様々であるため、療育のあり方も多様な形態が求められています。その形態の一つとして、当センターでは平成26年度からペアレントトレーニングを基盤とした「かんがるーグループ」を実施しています。

#### ■ かんがるーグループとは

基盤となるプログラムとして、国立精神神経センター精神保健研究所にて、米国での研究やプログラムをベースに開発されたペアレントトレーニングプログラムの手法を取り入れました。理論的には行動療法を基盤としたもので、当センターでは、これを再構成したプログラムを用いています。

#### ■ 活動の概要

##### （1）対象

以下のような児を育てながら育児の不安や負担感がある、何となく育てにくさ、対応の難しさを感じている保護者に参加を募りました。

- 発達障害の特性はあるものの行動上の問題は強くない
- 受診後間もない
- ある程度言語指示が通る、3～5歳児

##### （2）方法

保護者のみが参加するグループワーク(月に1～2回、1回1時間半の全5回シリーズ)とし、1グループあたり平均4～6人で構成しました。スタッフは発達相談員がリーダー(進行役)、サブリーダー(補助役)として参加しています。

また、自由記述方式で、初回にはグループで学びたいことや目標を、最終回にはグループの感想を記述してもらいました。

##### （3）内容

講義、ホームワーク、ロールプレイから構成しました(表1参照)。ホームワークは、行動分析におけるA:先行事象→B:行動→C:結果を記述することで、因果関係の明瞭化を狙いました。ロールプレイでは、親が子どもに片づけを求める場面など、日常的な状況を設定し、参加者全員が親役、子ども役、観察者役を交代で体験し、その後感想を発表、共有しました。

標準的なセッションの流れを表2に示しました。

表1：プログラム内容とホームワーク

	プログラム内容	ホームワーク
①	行動療法に基づいた考え方	子どもの行動を3種類(好ましい行動、好ましくない行動、許しがたい行動)に分類
②	好ましい行動について褒めることを具体的に考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ほめた行動</li> <li>• どのようにほめたか</li> <li>• その時の子どもの反応</li> </ul>
③	好ましくない行動を減らすための対応の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 注意したくなった子どもの行動</li> <li>• 注意する代わりにの対応</li> <li>• その後の子どもの反応</li> <li>• 子どもの反応をどうほめたか</li> </ul>
④	好ましくない行動に対して、好ましい行動を引き出すための対応の仕方	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 親が出した指示</li> <li>• それに対する子どもの言動</li> </ul>
⑤	これまでの振り返り	